

業務の効率化によるミーティング・療育内容の充実化の促進

一般社団法人 未来の種
放課後等デイサービス こもれび事業所

課題

事業所内で使用できるPCの台数が職員の数より少なく、職員間で共有して使用している状況があり、効率化が図れない。
PCでは、システムへの支援記録等への入力、療育で必要なものを作成することなどに使うため、PC共有だとじっくりと考え個別に合わせた支援の充実の準備等が難しい。

ICT機器 導入

ノートPC

成果

- ①業務の質の向上
 - ・療育内容の充実（活動の準備を十分に取れるようになった。）
 - ・必要時のPC使用が可能となった。
- ②量的な効率化
 - ・ミーティングの時間が以前より取れるようになった。
 - ・PCでのデータ作成の時間短縮。



業務効率化のステップ

①導入前の検討状況

職員全員分のPCがなく、支援記録ソフトの入っているPCは2台、それ以外のPCが1台であり、作業内容によって交替で使用していた。毎日異なる活動を提供しており、内容によって必要な作業がすぐに行えないこと、支援記録も打てないことで、職員でのミーティングの時間が十分に取れなかった。

②導入内容（詳細）

PCを新たに4台購入。職員に1台ずつ使用できる状況となった。その後それぞれの状況を把握し、午前は10時から午後は1時からのミーティング時間を設定し、出勤者全員での会議が可能となった。職員それぞれのタイミングでの業務遂行でき、活動の準備等も十分に時間を取れるようになった。

③導入における問題点の洗い出し・それに伴う改善など

- それぞれPCを使用できるようになったが、ミーティングの時間を定めないと、作業に集中しすぎてしまうことがあった。
- 支援記録ソフトが入っている台数が全数でないため、支援記録の入力においては工夫が必要だった。

職員の声など

【良かった点】

- 今までは、交代でPCを使っていたが必要なタイミングで使用できるようになったので、作業効率があがった。
- システムを使わない作業でも支援記録入力中だとPCを使えないことも多かったが、気にせずに使え、活動内容の充実を図ることができるようになった。
- 児童の見立てや振り返りを行う時間を十分に取れるようになった。
- 活動に使う教材等の工夫を時間をかけて行えるようになった。

【悪かった点】

- 支援記録入力に関しては、PCを待つこともあった。
- 支援記録ソフトが入っていないと、段取りの工夫が必要だった。

【今後の課題・その他】

- PCの台数分の支援記録システムの導入の検討。

